

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1493300014
法人名	有限会社 水車の里
事業所名	グループホーム 水車の里
訪問調査日	平成20年2月13日
評価確定日	平成20年3月14日
評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん 株式会社フィールズ

### 項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### 記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

作成日 平成 20年 2月 25日

## 【評価実施概要】

事業所番号	第1493300014号
法人名	有限会社 水車の里
事業所名	グループホーム 水車の里
所在地	神奈川県横浜市緑区新治町1101-2 (電話) 045-938-0595

評価機関名	福祉サービス第三者評価機関しょうなん株式会社フィールズ		
所在地	藤沢市鵜沼橋1-2-4 クゲヌマファースト3F		
訪問調査日	平成20年2月13日	評価確定日	平成20年3月14日

【情報提供票より】(平成 20年 1月 14日事務所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 18年 4月 1日			
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18人	
職員数	21人	常勤 10人	非常勤 11人	常勤換算 18.0人

### (2) 建物概要

建物構造	(木造)造り
	2階建ての (1)階 ~ (2)階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	66,000 円	その他の経費(月額)	83,970 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 200,000 円	有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要 (1月14日 現在)

利用者人数	名	男性	名	女性	名	
要介護1	2名	要介護2		6名		
要介護3	4名	要介護4		5名		
要介護5	1名	要支援2			名	
年齢	平均	83歳	最低	73歳	最高	97歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	たちばな台病院、たちばな台クリニック
---------	--------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホーム水車の里は、市民の森と住宅地に隣接し、広い敷地内に設置されています。東が公園のため見晴らしが良く、明るく、ホームでの生活に潤いをもたせています。広い畑で季節の野菜が収穫でき、環境が優れています。理念の「その人らしさ」を大切に、「自分らしく輝ける場面づくり」を目指しています。自由に外出できる仕組み作り、見守り研修、本人に合わせた見守り方法の見直し、全員が自己評価を行うなど、意欲的に取り組んでいます。特に職員へは、レベルに合わせた研修への積極的参加、資格への全員挑戦などにより、技術レベルが高く、利用者や家族の安全・安心につながっています。現在は地域に開かれたホームとすべく、町内会や地域との連携に力を入れています。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の外部評価以降、鍵をかけないための工夫や、見守り研修を行うことにより、一つ一つの事象の課題に思考錯誤しながら改善がなされています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は常勤者全員が現状と課題をまとめ、これを基にホームの自己評価を作成しています。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議は19年12月に発足し、隣接2自治会に参加いただき、ホームの説明を行い、理解を得るところまでできています。近々第2回を計画しており、各種のテーマについて理解を深めるほか、ご意見をいただく予定でいます。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>訪問時には声をかけ、質問や意見があれば応えています。特殊な事項には、家族と利用者が納得するまで検討して実施に移した事例もあり、家族・施設双方の信頼を得ています。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>ホームは広い公園の端に立地されており、周辺の住宅地は隣接自治会に所属しています。このため両自治会の協力を得て、ホームの理解活動に努めており、区の情報誌の配布、隣接自治会の祭りへの参加など、地元理解されるようになってきています。</p>

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	発足時に、職員全員から募集し、「その人らしさ」を發揮する理念と基本方針を作成している。当時は運営の基礎を築くことに主眼が置かれていたが、現在は地域に密着した交流に力を入れ、ホームが地域で理解されるよう取り組んでいる。	○	現状に合わせて地域密着の理念や基本方針を再確認して、理念・基本方針の見直しが期待されます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は日常の活動やカンファレンス時に理念と基本方針に振り返っている。職員は理念の展開について明確に説明できる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは緑地の端に立地され、周辺の住宅地は隣接自治会に所属している。このため自治会の協力を得て、ホームの理解活動に努めており、区の情報誌の配布、隣接自治会の祭りへの参加、地図にホームの記入など、地元から理解を得られる段階になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一つ一つの事象の課題に思考錯誤し改善がなされている。今回の自己評価は常勤者全員が当たり前のように現状と課題をまとめ、これを基にホームの自己評価としている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は19年12月に発足し、ホームの現状を説明し、理解をいただけるところまできた。近々第2回を計画しており、各種テーマの理解を得たり、ご意見をいただく予定でいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームブロック会や横浜市グループホーム連絡会で最新情報を得たり、各種調査への協力、交流会の下働きなどの諸活動を通して連携と交流に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの暮らしぶりや行事の予定と報告、職員の紹介などはホーム便りで事細かに報告している。日常の訪問時や必要に応じた電話相談をおこない、家族の安心につなげている。現金出納帳も報告され、家族会も開かれている。遠距離の家族とも電話などで連絡し合っている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時には声をかけて、質問や意見があれば応えている。特殊な事例には、家族と利用者が納得するまで検討し実施に移した事例もあり、家族・ホーム相互の信頼感が高い。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	安定したケアを行うためには、職員の対応が第一と考えている。新人をはじめ徹底してスペシャリストに育成を図り、統一されたケアで、影響を最小限に止めている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症実践研修、交換研修などの連絡会や特殊な研修には積極的に参加している。新人には研修カリキュラムや付き添いの宿直研修をしている。最近、見守り事例検討を導入し、職員自身が確認し技術レベルに応じて納得する方法を導入しはじめ、この効果が期待される。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	横浜市グループホーム協議会や交換研修で知り合った同業者などとは積極的に交流し、サービスの向上に努めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>相談があると自宅や病院などで本人に会い、状態を確認したのち家族と相談している。医者の診断結果や必要に応じて体験入居しながら施設の利用に入ることとしている。入居後は、本人の状況に応じて家族と相談しながらサポートしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>「その人らしさ」を大切にして、一人ひとりの得意なことを把握し、場面づくりにより日々の生活に張りをもたせるようにしている。一方、職員が利用者から日常活動のやり方を教わることも多い。</p>		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりの希望や思いは、本人や家族から把握、個人の記録や申し送りノートを活用し情報の共有化に努めている。職員研修の一環として、入居者に職員がマンツーマンで2時間寄り添う取り組みも始めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成時には、入居者、家族等とよく話し合い、その意向を反映している。介護計画は毎日振り返りを行っている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>短期目標を立て通常3ヶ月ごとに見直しを行っている。変化があれば、その都度計画を見直し、次の計画を直ちに家族に知らせている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	関連医療機関の病院の協力を得て、医療との連携ができています。透析の必要な入居者の受け入れ実績もある。介護要望・医療連携も行っており、安全・安心である。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居以前からのかかりつけ医との連携にも柔軟に対応して同行している。受診後は治療方針など家族へ結果報告をしている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族へ「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を配布し、ホームの方針や考え方を説明し、了解を得ている。終末期の対応については、主治医と連携しながら支援していくことも検討しており、職員の知識と経験を積む研修をしている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりの尊厳やプライバシーを大切に、言葉かけや対応に細心の注意を払っている。個人記録の書類は事務所に保管し、取り扱いに配慮している。個人情報保護に関する誓約書を職員一人ひとりと交わしている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの生活のリズムを大切に、本人の希望に沿った場面づくりに力を入れている。かるた、テレビ鑑賞、歌など思い思いに時間を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付けを入居者と職員が一緒に行っている。メニューは食材会社の福祉メニューを利用しているが、希望があれば外食に出かけることもある。行事食もあり、入居者の楽しみとなっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望やタイミングに合わせ、毎日楽しく入浴できるように支援している。お風呂嫌いの入居者は、歌いながらの入浴など工夫し、結果として喜ばれている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意なこと、好きなこと、役割を活かせるように支援している。調理、清掃、ごみ出し、畑仕事など一人ひとりに合った役割を分担している。野菜や草花を育てている広い畑もあり、環境作りへも配慮している。ボランティアによる華道教室も開かれている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物にはいつでも出かけられるようにしている。新治市民の森が隣接しており、自然環境にも恵まれている。外出支援はケアプランに入れている。敷地内にはベンチも置かれており、気軽に日光浴も出来る。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関ドアを開放し、安全を確保しながらも、開放感に留意したケアをしている。ホームの入り口から玄関までは長い距離があるため、近日中に門扉を設置し、外部からの進入を防ぐため施錠する予定となっている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に消防署の協力を得て担当を決め避難訓練を実施している。災害時、重度の入居者の避難をスムーズに行う方法も検討している。		災害時に備え、非常食を備蓄することが望まれます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の身体状況に合わせ、透析食、脂肪制限食なども提携病院の管理栄養士の指導を受け、提供されている。食事量、水分摂取量は全て記録され、全職員が把握できるようになっている。麦茶、コーヒー、紅茶、スポーツドリンクなど数種類の飲み物はいつでも飲めるように用意されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングからは市民の森が見え明るい。恵まれた自然環境の中、敷地内では数々の野菜や花を育てている。トイレは各フロアにそれぞれ3ヶ所設置されている。また、事務室も入居者に開放されており、職員と和やかに談笑できる場となっている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者は使い慣れた馴染みの家具を持ち込んでいる。作り付けの大きなクローゼットもあるが、たんす、鏡台、テレビ、ベッドなど思い思いのものを置いている。壁には家族の写真、自分で作った俳句、書道の作品などが貼られている居室もあり、居心地のよい空間となっている。		



# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 水車の里
(ユニット名)	1階
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	ホーム長 江田朱美
記入日	平成20年1月11日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設から半年後、全職員にてアンケート等を実施し現状にあった理念(目標)の構築を行いました。ホーム理念は現状に満足する事なく常に認知症介護の専門家として知識・技術の向上に努めると共に入居者一人ひとりの「その人らしさ」を重要視したものとなっています。</p>	
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>カンファレンス等を利用し理念の重要性について話し合う機会を作り理念実践に向け努力しています。また現在のホームの状況についても常に振り返りを行い理念が現状に合わないようであれば現状にあった目標の設定についても重要であると考えています。</p>	
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>ホーム理念はホーム玄関に掲示させていただいています。またご家族へは入居時に説明を行うなどご理解いただけるよう取り組んでいます。</p>	
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>散歩など外出の際には積極的に挨拶をおこない交流に努めています。またホームでのイベント開催時には近隣の方々へ便りにて参加の声かけを行っています。手作りのお手玉を頂いたりと少しずつですが近隣の方々とは良好な関係が築けてきていると思います。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>運営推進会議をきっかけに町内での催しなどについては自治会の方々より声を掛けて頂いています。今後も可能な限り入居者が地域活動に参加できるよう支援すると共に地元の人々との交流に努めていきたいと思っています。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、開設より一年九ヶ月が経過しました。開設以来、入居者への生活支援についての基盤づくりに専念しており地域への高齢者に携わることは出来ていませんでした。今後はホーム内にて話し合いの機会を設けていきたいと思えます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は全常勤者(全職員の約半数)にて自己評価票の記入を行い取り組みました。今回二度目の外部評価となりますが外部評価の意義については理解がされていると思われま		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々にご協力頂き第一回運営推進会議が無事に終了致しました。初回はホームの現状等を報告させて頂きました。今後も皆様にご協力いただきながら地域と共に歩む高齢者支援を確立すべく職員一同取り組んでいきたいと考えております。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	緑区ブロック会や横浜市グループホーム連絡会等・積極的に参加しサービスの向上に繋がるよう努めています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などを利用し制度について学ぶ機会を作っています。また、必要な入居者には実際に支援を行っています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	玄関ロビーには関連ポスターを貼付しています。またカンファレンスなどを利用し職員間にて話し合う機会を設けています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>初回面談より不安・疑問点については十分確認をおこない、不安・疑問点の解消に努めています。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時にはホーム内にある苦情・相談窓口や第三者機関の苦情窓口についての説明を行っています。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>金銭については個人現金出納帳を毎月送付し報告を行っています。 また、ホーム便りやその他報告についても状況にあわせて適切な方法にて報告するよう努めています。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居時にはホーム内にある苦情・相談窓口や第三者機関の苦情窓口についての説明を行っています。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>現在までに、運営についての意見、提案を聞く機会は設けられていません。今後は職員の意見や提案が反映できるような機会を設けていきたいと考えています。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>必要に応じ、職員間にて調整を行い適切、且つ柔軟な対応が出来るよう努めています。</p>	
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>常に安定したケアが提供できるよう新人研修などを行い入居者への影響を最小限に抑えるようにすると共に必要なものはマニュアルを作成し全職員が統一されたケアを提供できるよう努めています。</p>	

項目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な外部研修について参加の機会を設けると共に、参加した研修については報告書の作成及び他職員への報告を行っています。</p> <p>新人研修や定期的な勉強会については現在開催されていますが今後は職員の経験などに応じた職場内教育が実施出来るよう現在立案中です。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横浜市グループホーム連絡会での情報交換をはじめ交換研修などにも積極的に参加しています。</p> <p>研修会などで知り合った他事業所の職員との交流についても大切にネットワーク作りに努めています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員一人ひとりの状況に配慮し無理なく業務が行えるよう、勤務時間や休みの取り方などについて配慮しています。</p> <p>また、ホーム畑にて収穫された野菜を無料にて提供しています。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に職員がどのような状態にあるのか確認し必要な助言、支援に努めています。</p>	
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面接では利用者の状況に応じゆっくりと話が出来るよう面接場所や時間の確保に配慮すると共に初回面接以後も必要に応じ面接の機会を設けています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面接ではゆっくりと話が出来るよう面接場所や時間の確保に配慮すると共に初回面接以後も必要に応じ面接の機会を設けています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族はもちろんのこと、関係機関とも情報交換をおこない適切なサービスの利用が行えるよう努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には必要に応じ体験入居期間を作り、ご納得した上でサービスの利用を開始出来るよう配慮しています。入居後は入居者がホームに馴染めるようご家族と相談しながら対応しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「その人らしさ」を大切に考え、その人らしい生活が継続できるよう、またその人の得意なことが発揮出来るよう料理、清掃、畑仕事など職員と共に実践しています。そのような日々の生活の中、人生の先輩である入居者から学ぶことは非常に多いです。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの訴えには迅速に対応し信頼関係作りに努めています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者・ご家族が共により良い関係を継続できるよう支援に努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の要望には可能な限り対応できるよう努めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握した支援を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	状態が良く、在宅に戻られた利用者については便りなどを送付しています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく安心して生活が出来るよう職員は個人記録や申し送りノートを活用し情報の共有に努めています。また入居者の意思や思いを引き出せるような支援が行えるよう日々努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等からの情報収集に努め、センター方式を利用し職員が情報を共有できるようにしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録のほか、特記事項については申し送りなどを利用し常に全職員が入居者の状態を把握できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時には現状の報告や相談、意向を伺い入居者の思いや家族の意向を反映した計画作成に努めています。また、介護計画は毎日振り返りを行い各職員の実施状況が記入されています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は三ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っていますが、常に入居者の状況にあったケアが実践できるよう必要に応じ変更や追加を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきについては個人記録や申し送りノートに記入し情報の共有をはかっています。また個人記録には介護計画が記入されておりプランが実施出来たか出来なかったか毎日記録されるようになっていきます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望などについては早急に対応できるよう努めています。また常に入居者や家族がどのような状態にあるのか状況の把握に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの方による華道教室が開催されています。消防職員参加による消防訓練では実際に入居者も消火器訓練などを行っています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	より良い生活が送れるよう入居前のケアマネージャーなどと連携し話し合いの機会を設けています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後、運営推進会議をきっかけに地域包括支援センターとの関係作りに努めていきたいと考えています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関のみならず希望に応じ入居以前のかかりつけ医との連携についても柔軟に対応しています。受診後は家族に結果を報告し治療方針についての相談を行っています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隔週にて主治医の往診があり相談にのっていただいています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関の看護師に相談しながら日常の健康管理に努めています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護サマリーなどを利用し必要な情報交換が行えるよう努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族へは「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を配布しホームの方針、考え方について説明を行っています。また入居者・家族の希望する終末期の対応についても主治医と連携しながら支援方法を検討しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要な記録を残し正確な現状の報告に努めると共に、ホームにて「出来る事」「出来ない事」について主治医と相談を行い今後の変化に備えた検討を行っています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分に情報交換を行い利用者のダメージを最小限におさえ次のサービスに繋げるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人記録は事務所に保管し取り扱いには十分配慮しています。居室での時間、リビングでの時間、その中間となる場所で過ごす時間等、入居者自身のその時々にあった居心地の良い場所作りに努めています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入浴やその日に着用する衣服など、常に入居者へ確認を行い本人の希望を表せるよう支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの生活リズムを大切にし本人の希望に沿った支援の提供に努めています。また入居者からの希望やサインには早急な対応を心がけています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみには十分配慮しその人らしいおしゃれが楽しめるよう、お化粧品やマニキュアなど好みに合わせた支援を行っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や後片付けが入居者の得意な場面となるよう配慮し支援を行っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙等、入居者の状況や嗜好にあった支援の提供に努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方には排泄記録を作成、排泄パターンを知り必要な声かけを行っています。また羞恥心に配慮し不必要なパッド等は使用せず気持ちよくトイレにて排泄できるよう支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう対応しています。基本的な入浴時間については設定されていますが入居者の希望やタイミングに合わせ臨機応変な対応を心がけています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に入居者の状態に応じた対応を心がけています。またその人らしさを大切に一人ひとりの生活リズムにあった支援を行っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意なこと、好きな事、役割を生活に活かせるよう支援しています。調理や清掃、畑仕事など楽しみをもって行えるよう環境作りへも配慮しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により自身にて金銭管理を行っています。また、近くのスーパーなど所持金での買い物についても支援を行っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、いつでも出かけることが出来るよう対応しています。敷地内にあるベンチでは気軽に日光浴をおこなう事が出来ます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話の中から聞かれた要望などは可能なものから機会を作り支援を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話や手紙などのやりとりが出来るよう支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各ご家族の生活リズムなども考慮しつつでも気軽に訪問して頂けるよう配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスなどにて常に話し合い、確認しあいケアに取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を確保しながらも開放感に留意したケアに取り組んでいます。 日中は玄関ドアを開放し一階と二階との交流が自由に行えるよう取り組んでいます。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はプライバシーに配慮しながらも常に入居者の安全に配慮した対応をおこなっています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に状態を把握し適切な対応にて危険防止に取り組んでいます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットにて集まった情報を元に月に一度業務改善委員会を開催し一人ひとりに応じた事故防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応方法や応急手当については業務マニュアルにて常に確認をおこなう事が出来るようになっています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に関催する消防訓練にて地域の消防署より指導いただいている。入居者の状態に合わせて定期的に見直し、訓練の継続に努めていきたい。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時はもちろんのこと、常に状態を説明し必要に応じて話し合いを行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日二回のバイタル測定や日々の観察により異変の早期発見に努めています。また、緊急時の対応については日勤帯、夜勤帯それぞれの対応方法がマニュアル化されています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に処方された薬については日々の記録ファイルに一覧表が綴じられており誰がどのような薬を服用されているのかがすぐに分かるようになっています。与薬については服薬時に確認を行うのはもちろんのこと第三者による確認も行っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄リズムを理解し適切な支援を行えるよう努めています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの状況にあわせ支援されています。また状態により提携されている歯科医院と連携し良好な口腔状態の維持に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析食や脂肪制限食など入居者の状況にあった調理方法を行っています。また食事量・水分摂取量については全て記録を行い全職員が状態把握できるよう努めています。また数種類の飲み物を用意し好みや状況にあった飲み物を摂取する事が出来るようになっていきます。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策会議を設け、担当委員は積極的に研修会などに参加し全職員へ研修報告を行っています。また各状況に応じ、対応方法が決められています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は定期的に賞味期限など状態の確認を行っています。冷蔵庫内については定期的な清掃と、温度管理を毎日行い記録を残しています。調理器具についても必要に応じ除菌等適切な衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が畑な事もあり大変開放感があり出入りしやすい環境となっています。また入り口のスロープには季節の花などを飾り常に整理整頓を心がけています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは新治市民の森を見渡すことができ入居者は朝日や夕焼けを見ることを楽しみにされています。恵まれた環境を活かしホーム内にある畑では季節の野菜や花を育てています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・リビングの他、ローカの一角に椅子を置き中間的な居場所作りを行ったり事務所内はいつでも入居者の方が出入りできるようになっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを 活かして、本人が居心地よく過ごせるような工 夫をしている	入居者が居心地よく生活出来るよう入居時には馴染みの家 具やご自身の好みにあった家具の利用をお願いし安心でき る居心地の良い部屋作りに努めています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換 気に努め、温度調節は、外気温と大きな差が ないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめ に行っている	午前中の掃除の際には各部屋の窓を開け換気を行っていま す。居室やリビングなどの温度にも配慮しその人の状況にあ わせた対応を心がけています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かし て、安全かつできるだけ自立した生活が送れ るように工夫している	一人ひとりが身体機能を活かした生活が出来よう配慮する と共に必要な場所には手すりや椅子などを設置し安全に生 活出来るよう工夫しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失 敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫してい る	ケアプランはその人らしさを大切にした自立支援が行えるよ うに作成されています。定期的なモニタリングではその方の 確な現状の把握に努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだ り、活動できるように活かしている	玄関前のスペースにはベンチが置いてあり日光浴等を楽し まれています。敷地内の畑では季節の野菜作りが行われて います。		

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	



項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

水車の里では理念にも掲げています「その人らしさ」を大切に、各入居者が自分らしく輝ける場面作りに力を入れています。長年の馴染みである野菜作りを恵まれた環境を利用しおこなったり、大好きな家事をご自身の家と同じように積極的におこなったり、また、余暇時間の過ごし方についても皆でおこなうレクリエーションだけでなく一人ひとりの好みにあわせその人らしい時間が過ごせるよう、ラーメンを食べに行ったり、ケーキを食べに行ったり、欲しいものを買に出かけたりと個別に対応しています。新治市民の森に囲まれた穏やかな環境の中、その人らしい生活が継続して出来るよう日々職員一同取り組んでおります。

# 自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

## 記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## 用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目( 1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目( 88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 水車の里
(ユニット名)	2階
所在地 (県・市町村名)	横浜市
記入者名 (管理者)	ホーム長 江田朱美
記入日	平成20年1月11日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設から半年後、全職員にてアンケート等を実施し現状にあった理念(目標)の構築を行いました。ホーム理念は現状に満足する事なく常に認知症介護の専門家として知識・技術の向上に努めると共に入居者一人ひとりの「その人らしさ」を重要視したものとなっています。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンス等を利用し理念の重要性について話し合う機会を作り理念実践に向け努力しています。また現在のホームの状況についても常に振り返りを行い理念が現状に合わないようであれば現状にあった目標の設定についても重要であると考えています。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホーム理念はホーム玄関に掲示させていただいています。またご家族へは入居時に説明を行うなどご理解いただけるよう取り組んでいます。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	散歩など外出の際には積極的に挨拶をおこない交流に努めています。またホームでのイベント開催時には近隣の方々へ便りにて参加の声かけを行っています。手作りのお手玉を頂いたりと少しずつですが近隣の方々とは良好な関係が築けてきていると思います。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議をきっかけに町内での催しなどについては自治会の方々より声を掛けて頂いています。今後も可能な限り入居者が地域活動に参加できるよう支援すると共に地元の人々との交流に努めていきたいと思っています。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在、開設より一年九ヶ月が経過しました。開設以来、入居者への生活支援についての基盤づくりに専念しており地域への高齢者に携わることは出来ていませんでした。今後はホーム内にて話し合いの機会を設けていきたいと思えます。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回は全常勤者(全職員の約半数)にて自己評価票の記入を行い取り組みました。今回二度目の外部評価となりますが外部評価の意義については理解がされていると思われま		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方々にご協力頂き第一回運営推進会議が無事に終了致しました。初回はホームの現状等を報告させて頂きました。今後も皆様にご協力いただきながら地域と共に歩む高齢者支援を確立すべく職員一同取り組んでいきたいと考えております。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	緑区ブロック会や横浜市グループホーム連絡会等・積極的に参加しサービスの向上に繋がるよう努めています。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修会などを利用し制度について学ぶ機会を作っています。また、必要な入居者には実際に支援を行っています。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	玄関ロビーには関連ポスターを貼付しています。またカンファレンスなどを利用し職員間にて話し合う機会を設けています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	初回面談より不安・疑問点については十分確認をおこない、不安・疑問点の解消に努めています。		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居時にはホーム内にある苦情・相談窓口や第三者機関の苦情窓口についての説明を行っています。		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	金銭については個人現金出納帳を毎月送付し報告を行っています。 また、ホーム便りやその他報告についても状況にあわせて適切な方法にて報告するよう努めています。		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	入居時にはホーム内にある苦情・相談窓口や第三者機関の苦情窓口についての説明を行っています。		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	現在までに、運営についての意見、提案を聞く機会は設けられていません。今後は職員の意見や提案が反映できるような機会を設けていきたいと考えています。		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	必要に応じ、職員間にて調整を行い適切、且つ柔軟な対応が出来るよう努めています。		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	常に安定したケアが提供できるよう新人研修などを行い入居者への影響を最小限に抑えるようにすると共に必要なものはマニュアルを作成し全職員が統一されたケアを提供できるよう努めています。		

項目		(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>様々な外部研修について参加の機会を設けると共に、参加した研修については報告書の作成及び他職員への報告を行っています。</p> <p>新人研修や定期的な勉強会については現在開催されていますが今後は職員の経験などに応じた職場内教育が実施出来るよう現在立案中です。</p>	
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>横浜市グループホーム連絡会での情報交換をはじめ交換研修などにも積極的に参加しています。</p> <p>研修会などで知り合った他事業所の職員との交流についても大切にネットワーク作りに努めています。</p>	
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員一人ひとりの状況に配慮し無理なく業務が行えるよう、勤務時間や休みの取り方などについて配慮しています。</p> <p>また、ホーム畑にて収穫された野菜を無料にて提供しています。</p>	
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>定期的に職員がどのような状態にあるのか確認し必要な助言、支援に努めています。</p>	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面接では利用者の状況に応じゆっくりと話が出来るよう面接場所や時間の確保に配慮すると共に初回面接以後も必要に応じ面接の機会を設けています。</p>	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初回面接ではゆっくりと話が出来るよう面接場所や時間の確保に配慮すると共に初回面接以後も必要に応じ面接の機会を設けています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族はもちろんのこと、関係機関とも情報交換をおこない適切なサービスの利用が行えるよう努めています。		
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居の際には必要に応じ体験入居期間を作り、ご納得した上でサービスの利用を開始出来るよう配慮しています。入居後は入居者がホームに馴染めるようご家族と相談しながら対応しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	「その人らしさ」を大切に考え、その人らしい生活が継続できるよう、またその人の得意なことが発揮出来るよう料理、清掃、畑仕事など職員と共に実践しています。そのような日々の生活の中、人生の先輩である入居者から学ぶことは非常に多いです。		
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族からの訴えには迅速に対応し信頼関係作りに努めています。		
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	入居者・ご家族が共により良い関係を継続できるよう支援に努めています。		
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の要望には可能な限り対応できるよう努めています。		
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	入居者同士の関係を把握した支援を行っています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	状態が良く、在宅に戻られた利用者については便りなどを送付しています。		
<b>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく安心して生活が出来るよう職員は個人記録や申し送りノートを活用し情報の共有に努めています。また入居者の意思や思いを引き出せるような支援が行えるよう日々努めています。		
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族等からの情報収集に努め、センター方式を利用し職員が情報を共有できるようにしています。		
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	日々の記録のほか、特記事項については申し送りなどを利用し常に全職員が入居者の状態を把握できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	計画作成時には現状の報告や相談、意向を伺い入居者の思いや家族の意向を反映した計画作成に努めています。また、介護計画は毎日振り返りを行い各職員の実施状況が記入されています。		
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	通常は三ヶ月ごとに介護計画の見直しを行っていますが、常に入居者の状況にあったケアが実践できるよう必要に応じ変更や追加を行っています。		



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきについては個人記録や申し送りノートに記入し情報の共有をはかっています。また個人記録には介護計画が記入されておりプランが実施出来たか出来なかったか毎日記録されるようになっていきます。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	要望などについては早急に対応できるよう努めています。また常に入居者や家族がどのような状態にあるのか状況の把握に努めています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	定期的にボランティアの方による華道教室が開催されています。消防職員参加による消防訓練では実際に入居者も消火器訓練などを行っています。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	より良い生活が送れるよう入居前のケアマネージャーなどと連携し話し合いの機会を設けています。		
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	今後、運営推進会議をきっかけに地域包括支援センターとの関係作りに努めていきたいと考えています。		
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医療機関のみならず希望に応じ入居以前のかかりつけ医との連携についても柔軟に対応しています。受診後は家族に結果を報告し治療方針についての相談を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	隔週にて主治医の往診があり相談にのっていただいています。		
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	提携医療機関の看護師に相談しながら日常の健康管理に努めています。		
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	介護サマリーなどを利用し必要な情報交換が行えるよう努めています。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族へは「利用者が重度化した場合における対応に係る指針」を配布しホームの方針、考え方について説明を行っています。また入居者・家族の希望する終末期の対応についても主治医と連携しながら支援方法を検討しています。		
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	必要な記録を残し正確な現状の報告に努めると共に、ホームにて「出来る事」「出来ない事」について主治医と相談を行い今後の変化に備えた検討を行っています。		
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	十分に情報交換を行い利用者のダメージを最小限におさえ次のサービスに繋げるよう努めています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>個人記録は事務所に保管し取り扱いには十分配慮しています。居室での時間、リビングでの時間、その中間となる場所で過ごす時間等、入居者自身のその時々にあった居心地の良い場所作りに努めています。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している</p>	<p>入浴やその日に着用する衣服など、常に入居者へ確認を行い本人の希望を表せるよう支援しています。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>入居者一人ひとりの生活リズムを大切にし本人の希望に沿った支援の提供に努めています。また入居者からの希望やサインには早急な対応を心がけています。</p>	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>身だしなみには十分配慮しその人らしいおしゃれが楽しめるよう、お化粧品やマニキュアなど好みに合わせた支援を行っています。</p>	
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>食事の準備や後片付けが入居者の得意な場面となるよう配慮し支援を行っています。</p>	
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>飲酒、喫煙等、入居者の状況や嗜好にあった支援の提供に努めています。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	必要な方には排泄記録を作成、排泄パターンを知り必要な声かけを行っています。また羞恥心に配慮し不必要なパッド等は使用せず気持ちよくトイレにて排泄できるよう支援しています。		
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できるよう対応しています。基本的な入浴時間については設定されていますが入居者の希望やタイミングに合わせ臨機応変な対応を心がけています。		
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	常に入居者の状態に応じた対応を心がけています。またその人らしさを大切に一人ひとりの生活リズムにあった支援を行っています。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの得意なこと、好きな事、役割を生活に活かせるよう支援しています。調理や清掃、畑仕事など楽しみをもって行えるよう環境作りへも配慮しています。		
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望により自身にて金銭管理を行っています。また、近くのスーパーなど所持金での買い物についても支援を行っています。		
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物など、いつでも出かけることが出来るよう対応しています。敷地内にあるベンチでは気軽に日光浴をおこなう事が出来ます。		
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	普段の会話の中から聞かれた要望などは可能なものから機会を作り支援を行っています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との電話や手紙などのやりとりが出来るよう支援しています。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	各ご家族の生活リズムなども考慮しつつでも気軽に訪問して頂けるよう配慮しています。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	カンファレンスなどにて常に話し合い、確認しあいケアに取り組んでいます。		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	安全を確保しながらも開放感に留意したケアに取り組んでいます。 日中は玄関ドアを開放し一階と二階との交流が自由に行えるよう取り組んでいます。		
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員はプライバシーに配慮しながらも常に入居者の安全に配慮した対応をおこなっています。		
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	常に状態を把握し適切な対応にて危険防止に取り組んでいます。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットにて集まった情報を元に月に一度業務改善委員会を開催し一人ひとりに応じた事故防止に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	初期対応方法や応急手当については業務マニュアルにて常に確認をおこなう事が出来るようになっています。		
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に開催する消防訓練にて地域の消防署より指導いただいている。入居者の状態に合わせて定期的に見直し、訓練の継続に努めていきたい。		
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時はもちろんのこと、常に状態を説明し必要に応じて話し合いを行っています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一日二回のバイタル測定や日々の観察により異変の早期発見に努めています。また、緊急時の対応については日勤帯、夜勤帯それぞれの対応方法がマニュアル化されています。		
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者に処方された薬については日々の記録ファイルに一覧表が綴じられており誰がどのような薬を服用されているのかがすぐに分かるようになっています。与薬については服薬時に確認を行うのはもちろんのこと第三者による確認も行っています。		
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排泄リズムを理解し適切な支援を行えるよう努めています。		
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の口腔ケアは一人ひとりの状況にあわせ支援されています。また状態により提携されている歯科医院と連携し良好な口腔状態の維持に努めています。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	透析食や脂肪制限食など入居者の状況にあった調理方法を行っています。また食事量・水分摂取量については全て記録を行い全職員が状態把握できるよう努めています。また数種類の飲み物を用意し好みや状況にあった飲み物を摂取する事が出来るようになっています。		
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症対策会議を設け、担当委員は積極的に研修会などに参加し全職員へ研修報告を行っています。また各状況に応じ、対応方法が決められています。		
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食材は定期的に賞味期限など状態の確認を行っています。冷蔵庫内については定期的な清掃と、温度管理を毎日行い記録を残しています。調理器具についても必要に応じ除菌等適切な衛生管理に努めています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前が畑な事もあり大変開放感があり出入りしやすい環境となっています。また入り口のスロープには季節の花などを飾り常に整理整頓を心がけています。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの窓からは新治市民の森を見渡すことができ入居者は朝日や夕焼けを見ることを楽しみにされています。恵まれた環境を活かしホーム内にある畑では季節の野菜や花を育てています。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室・リビングの他、ローカの一角に椅子を置き中間的な居場所作りを行ったり事務所内はいつでも入居者の方が出入りできるようになっています。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が居心地よく生活出来るよう入居時には馴染みの家具やご自身の好みにあった家具の利用をお願いし安心できる居心地の良い部屋作りに努めています。		
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	午前中の掃除の際には各部屋の窓を開け換気を行っています。居室やリビングなどの温度にも配慮しその人の状況にあわせた対応を心がけています。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりが身体機能を活かした生活が出来よう配慮すると共に必要な場所には手すりや椅子などを設置し安全に生活出来るよう工夫しています。		
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ケアプランはその人らしさを大切にした自立支援が行えるように作成されています。定期的なモニタリングではその方の確な現状の把握に努めています。		
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前のスペースにはベンチが置いてあり日光浴等を楽しまれています。敷地内の畑では季節の野菜作りが行われています。		



. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、活き活きと働けている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

水車の里では理念にも掲げています「その人らしさ」を大切に、各入居者が自分らしく輝ける場面作りに力を入れています。長年の馴染みである野菜作りを恵まれた環境を利用しおこなったり、大好きな家事をご自身の家と同じように積極的におこなったり、また、余暇時間の過ごし方についても皆でおこなうレクリエーションだけでなく一人ひとりの好みにあわせその人らしい時間が過ごせるよう、ラーメンを食べに行ったり、ケーキを食べに行ったり、欲しいものを買に出かけたりと個別に対応しています。新治市民の森に囲まれた穏やかな環境の中、その人らしい生活が継続して出来るよう日々職員一同取り組んでおります。